

2017/09/10 のメッセージより

「サタンの策略」

「もしあなたがたが人を赦すなら、私もその人を赦します。私が何かを赦したのなら、私の赦したことは、あなたがたのために、キリストの御前で赦したのです。これは、私たちがサタンに欺かれたいためです。私たちはサタンの策略を知らないわけではありません。」（I コリント 2:10-11）

■赦しなさい

聖書は私達に、「赦しなさい」、すなわち「怒ったり、腹を立てたりしてはいけない」と教えています。怒ったり、腹を立てたりすること、それ自体が、サタンの策略にはまったことになります。

サタン（悪魔）とは、「神の御心と逆方向に私達を引っ張る力」と考えればわかりやすいでしょう。神の御心は、神を愛し、人を愛することです。私達は、もともとそのように造られているので、神を信頼できなかつたり、人を愛せなくなつたりすると、つらくなります。人の本心は、神を慕い求め、人を愛したいと願っているのです。ところが、この世の中は、その逆方向に引っ張ろうとする力が働いています。それが、怒り・憤りです。それによって、私達は愛せなくなり、つらさを感じます。

「主のしもべが争ってはいけません。むしろ、すべての人に優しくし、よく教え、よく忍び、反対する人たちを柔和な心で訓戒しなさい。もしかすると、神は彼らに悔い改めの心を与えて真理を悟らせ、一時は悪魔に捕えられて思うままになっていた人々でも、目ざめてそのわなをのがれることもあるでしょう。」（II テモテ 2:24-26）

悪魔の罠から逃れる方法は、争わないことです。怒らず、柔和な心で接すると、相手の怒りも鎮まるものです。そうすると、あなただけでなく、相手もサタンの罠から逃れることができるかもしれないのです。サタンの罠とは、私達が怒るところに仕掛けられていることがよくわかります。

■なぜ腹が立つのか

私達の心はもともと、神を愛し、人を愛するように造られており、人と争うことを望んでいません。望んでいないにもかかわらず、争ってしまう自分を見ると、なぜいつもこうなってしまうのだろうかと後悔して思い悩むものです。自分の思いとは違う方向にはめられてしまうからこそ、怒りは罠なのです。そんな私達を、イエス様は、「彼らは何をしているのかわからないでいるのです」と言っています。

罠に陥らないようにするために、まずは私達に腹を立てさせている原因を探ってみましょう。

1. 相手に条件を突きつけるから

条件とは、聖書でいう律法のことです。私達は、人や社会に対して、「〇〇しなければならない。」「こうあるべきだ。」と様々な条件をつけています。しかし、このような条件をつけることで、その条件を満たさないことに対して腹が立つようになります。人は互いに律法を持っており、自分の律法によって腹を立てているのです。

つまり、私達が人に腹を立てるのは、相手が嫌いだからではなく、自分自身が持っている律法に違反しているからです。本心では人を愛したいと願っているのに、自分で律法を作ってしまったため、相手が自分の律法に違反していると、敵意を抱いてしまうのです。ということは、自分の律法が変わると、相手に対する感情は変わります。

「ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。」(エペソ 2:15)

律法こそが敵意であり、私達に腹を立てさせている原因です。律法は、死という神と人の分離によって生まれました。イエス・キリストは、この敵意を廃棄するためにこの地上に生まれ、十字架に架かれたのです。

私たちが罫から抜け出すには、怒りは自分自身が持っている律法によって生じていることに気づく必要があります。私達の怒りは、相手の問題ではなく、すべて自分自身の問題だということです。ところが、多くの人は、腹が立つと相手のせいだと思い込み、相手を責め、相手を変えることで、自分の怒りを治めようとしています。しかし、たとえ相手が変わることで一時的に怒りが収まったとしても、律法の眼鏡はそのままですから、また腹を立てることを繰り返すのです。

2. 相手に結果を要求するから

この地上での私達の時間は限られています。そのため、早く成果を出すように、絶えず結果が要求されます。自分自身も結果が要求されているので、結果が出ないことに対して腹が立ってしまうのです。

3. 自分の不安を相手に重ねるから

人は皆、肉体の死に対して潜在的な不安を抱いています。死は、私達が手にしたものをすべて無にし、富を築くことも永遠の居場所を築くことも許しません。そのため、人は死を恐れ、自分のしていることが本当に意味のあることなのかと不安を抱きます。

また、人は皆、神に造られ、神の律法が心にあるために、罪を犯すと罪責感を感じます。そのため、無意識に災い、天罰などの罰を恐れて生きています。

しかしながら、肉体の死というすべてが無になる不安も、罪責感という不安も、現実に行き始めている事柄ではなく、将来のことであり、実体がありません。そこで、この不安を排除するために、人や困難な出来事などの実体のあるものに不安を重ねます。たとえば、人との交わりに困難を感じると、「自分の罪が裁かれる」という不安を、人に重ねます。病気や怪我と

いった困難に陥ると、そこに不安を重ねます。すると、私達の心の中で何が起こるかという
と、不安を重ねた相手に恐怖を感じるようになるのです。そして、恐怖を覚えた瞬間、その
恐怖に打ち勝とうとして、相手に怒りや敵意を覚えるのです。

■畏に陥らないために

怒ったり、腹を立てたりするのは、相手のせいではなく、すべて自分の問題です。このこ
とに気づかないと、何も解決しません。まずさばくのをやめることからスタートしましょう。

1. さばくことをやめる

「さばいてはいけません。さばかれないためです。」(マタイ 7:1)

この御言葉は、「あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれる」と続きます。つ
まり、人を裁けば、あなた自身が苦しくなると教えているのです。サタンの畏から脱出する
第一歩は、裁かないことです。怒りは自分の問題だと気づき、裁くことをやめ、赦すことを
実行するしかありません。これによって、被害の拡大を防ぐことができます。まずはさばく
ことをやめ、被害の拡大を防ぎ、それから原因を取り除きましょう。

2. 赦されていることを知る

「そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯したばあい、
何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」イエスは言われた。「七度まで、
などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。」(マタイ 18:21-22)

「このことから、天の御国は、地上の王にたとえることができます。

王はそのしもべたちと清算をしたいと思った。清算が始まると、まず一万タラントの借
りのあるしもべが、王のところに連れて来られた。しかし、彼は返済することができな
かったので、その主人は彼に、自分も妻子も持ち物全部も売って返済するように命じた。
それで、このしもべは、主人の前にひれ伏して、『どうかご猶予ください。そうすれば全
部お払いいたします。』と言った。しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借
金を免除してやった。ところが、そのしもべは、出て行くと、同じしもべ仲間で、彼か
ら百デナリの借りのある者に出会った。彼はその人をつかまえ、首を絞めて、『借金を返
せ。』と言った。彼の仲間は、ひれ伏して、『もう少し待ってくれ。そうしたら返すから。』
と言って頼んだ。しかし彼は承知せず、連れて行って、借金を返すまで牢に投げ入れた。
彼の仲間たちは事の成り行きを見て、非常に悲しみ、行って、その一部始終を主人に話
した。そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『悪いやつだ。おまえがあんなに頼んだか
らこそ借金全部を赦してやったのだ。私がおまえをあわれんでやったように、おまえも
仲間をあわれんでやるべきではないか。』こうして、主人は怒って、借金を全部返すまで、
彼を獄吏に引き渡した。

あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、
このようになさるのです。」(マタイ 18:23-35)

神様は私達に何の要求もせずに、罪を赦してくださり、さらに何度でも無条件で赦すと言っておられます。ですから、あなたも、人に律法で要求するのはやめなさいと語られているのです。律法とは取り立てです。自分の借金が赦されたことに気づいて、人の取り立てをするのはやめましょう。神様が私達を何度でも赦してくださるのは、私達が神様から受けている恵みをしっかりと思い出して、罠に落ちないためなのです。

3. 赦される経験を積む

私たちが相手に不安を重ねるのは、自分の罪が本当に赦されている経験がなく、愛されている経験が不足しているせいです。私達には、愛される経験、赦される経験が必要です。そのために、聖書は、自分の罪を言い表して祈るように教えています。

人を愛せないとき、怒ってしまったとき、「人を愛せないことを赦してください」と祈ればよいのです。そうすれば、神様はあなたの罪を無条件で赦してくださいます。罪が赦された経験を積み重ねれば、心に平安が訪れます。多くの罪が赦されたと知れば、私達は、人を愛せるようになっていくのです。

私達の中にある怒りを生み出すシステムを壊すには、無条件で愛されていることを受け入れられない限り、不可能なのです。条件をつけて人を愛そうとする限り、愛することはできません。神様はあなたに条件をつけていないのですから、神に愛されている自分をそのまま受け入れましょう。そのために必要なことが、多くの罪を赦される経験なのです。これが、人を愛する方向に舵を切らせてくれる力となるのです。

「だから、わたしは言うのです。『この女の多くの罪は赦されています。というのは、彼女はよけい愛したからです。しかし少ししか赦されない者は、少ししか愛しません。』」

(ルカ 7:47)

自分の罪が赦されたことがわからなければ、人を愛することはできません。多くの罪が赦されたと知る人は、人を愛せるようになります。罪が赦されていることをどれだけ知ることができるか、それが、あなたを敵の罠から救い出してくれるのです。

人と争ってしまう時、心の中に怒りが生じた時、罠に落ちたことに気がついて、神様の前に「赦してください」と罪を差し出しましょう。心を開いて神の愛を受け入れ、罪が赦されたことに気づくまで祈りましょう。そうすると相手をそのまま受け入れることができるようになっていきます。これが罠から解放される道です。